

教科	観点	現状と課題	具体的な授業改善策
国語	知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> 平仮名の字形や筆順に留意しながら練習に意欲的に取り組める児童が多かったが、長音、拗音、促音、撥音等について間違える場面が多く見られる。 助詞や句読点の活用については継続的に取り組んできているが、更に徹底していく必要がある。また、語彙に差があるため、個別の支援が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> 継続して鉛筆の持ち方や姿勢に気を付けるよう指導するとともに、言葉遊びや書き慣れをさせることで定着を図る。 習熟プリントやタブレット活用の活用を図るとともに、家庭学習の充実を図ることで、徹底していく。 言葉を集めたり変換したりする機会を多く取り、学習した言葉を生活の中で活用することで語彙を増やす。
	思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> 自分で伝えたい内容を決めて考えたり順番を考えて話したりすることに十分に慣れさせていく必要がある。 経験したことや想像したことなどから伝えたいことを集めて考える力を身に付けさせていく必要がある。 文章を読んで大体の内容を理解したり、内容と自分の経験等を結び付けて考えたりする力を伸ばしていく必要がある。 自分で文章を考え、伝えたり書いたりすることにまだ慣れていない。 	<ul style="list-style-type: none"> 日常の対話的活動やペアトークを生かし、必要性のある話合いの場を設定することで話す力も聞く力も育成する。 考えの整理の仕方等の基礎を指導し、表現する機会を意図的に設定することで、自分の考えを分かりやすく伝える力を伸ばす。その際には、自分が書いたことを読み返し適切に修正する習慣が身に付くように指導する。 アンダーラインを引くなどの指導方法を工夫し、文章を読む指導を繰り返す。 考えや感想を言う機会や日記を書く機会を設定し、自分の考えを書くことに慣れさせる。
	主体的に学習に取り組もうとする態度	<ul style="list-style-type: none"> 読み聞かせや読書を楽しむ姿が見られる。 授業に対する関心・意欲はあり、すすんで発表をする児童が多く、登場人物の気持ちや場面の様子を想像しながら読んだり、発表したりする児童が多い。 自分の学習を振り返る力を身に付けていく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> スピーチでテーマを示し、5W1Hを意識して2文以上で話をさせる。能動的に話を聞かせるために、ランダム指名等も取り入れ、意見交流する場を設定する。 ペアやグループでの活動を取り入れ、自分事として学習に参加させる。 明確なめあてを示し、振り返りの時間を十分に確保するとともに、振り返りの視点を指導することで、振り返る力を身に付けさせる。

算数	知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> 10までの数の合成や分解に係る技能の定着が不十分な児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 半具体物等を用いて、10までの数の合成や分解を徹底する。 計算カードやプリント学習、くじラーニングなどを活用し、正確に計算できるようにする。
	思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> 文章問題を十分に理解し、立式する力に課題がある児童が多い。 問題作りの理解が十分でなく、適切な問題作りができない児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 生活の中で集合数や順序数、長さ比べを意識させ、習熟を図る。 文を読み、具体化・視覚化をしたり、キーワードを探させたりして、内容を理解する力を育てていく。 具体物を用いた活動や作業的な活動を取り入れて問題場面をイメージできるようにする。
	主体的に学習に取り組もうとする態度	<ul style="list-style-type: none"> 学習した内容を振り返り、できるようになったことを整理し、次の時間に生かしていこうとする力を身に付ける必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童同士の学び合いの場を設定し、目的意識をもって活動に取り組めるようにする。 明確なめあてを示し、振り返りの時間を十分に確保するとともに、振り返りの視点を指導することで、振り返る力を身に付けさせる。
生活	知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> 経験の差や捉え方に個人差があり、「気付き」にも大きな個人差が見られている。 	<ul style="list-style-type: none"> 無自覚だった気付きが明確になるよう、活動や体験を言葉で振り返らせる。 観察は五感を使い、形、大きさ、太さ、高さ、重さ、厚さ、比較、比喻等の多様な視点から観察するよう指導することで、様々な視点から、対象物の成長や違いに気付かせる。
	思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> 漠然と身近な人々や社会、自然と関わっていることが多く、様々な視点から意識付けを図る必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 活動したことを生かし、「気付いたこと」「考えたこと」を言語化（発表、カード記録等）させる。 「気付き」「考え」をペアや全体で交流することで、「共通点」「相違点」「良さ」を捉えさせ、さらに「試す」「見通す」など活動を広げたり深めたりする。
	主体的に学習に取り組もうとする態度	<ul style="list-style-type: none"> 身近な人々や社会、自然への興味関心は高く、学んだこと生かして活動しようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童の思いや願いから活動を始める。 <ol style="list-style-type: none"> ① 思いや願いをもつ。 ② 活動や体験をする。 ③ 感じる・考える ④ 表現する・行為する。 を繰り返したり入れ替えたりしながら、学習への主体性を継続させる。

音楽	知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽を聴いて体を動かして歌ったり、リズムを手拍子や打楽器で演奏したりすることができる児童が多いが、個人差は他教科同様に大きい。 ・音程を取ることがなかなか難しい児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・拍に合わせて体を動かすことやリズムを正確に打つことなど、基礎的な技能を向上させる。 ・繰り返し発声練習を行い、自分の歌声や発音に気を付けて歌う技能を身に付けさせる。
	思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> ・曲や演奏を聴いて、気付いたことや感じたことを表現できる児童がおおいが、これらが難しい児童も一定数いる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・歌う前に歌詞を音読し、歌詞の意味を考えさせる。気付いたことや感じたことを交流し、音楽を味わう経験や音楽的な表現を増やす。
	主体的に学習に取り組もうとする態度	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽活動に興味・関心をもち、楽しんで活動しようとする様子が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・互いに音楽を楽しむ雰囲気を作り、心と体をリラックスさせる工夫を行う。
図画工作	知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> ・糊やはさみの扱い、クレパスでの濃淡の描き分けなど個人差が大きく、十分に慣れ親しませていく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・切る、貼る、塗るなどの活動の基本をしっかり押さえて指導する。
	思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもらしい自由な発想をできる児童と、指導者が示した表現に大きく左右されてしまう児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・工夫するとはどのようなことか具体的に示し慣れさせていくとともに、努力したことや工夫したことを積極的に認め、友達の工夫や良い点を交流することで発想を広げさせる。
体育	主体的に学習に取り組もうとする態度	<ul style="list-style-type: none"> ・意欲をもって作品づくりに取り組み、自分なりに作品を仕上げるができる児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・造形活動に興味をもって、楽しく学習できるような教材を選択する。
	知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> ・技能面では大きな個人差がある。 ・体を器用に動かすことができず、苦勞する児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・個にあった指導を行い、個々の成長を認めながら、運動に慣れ親しめるようにする。 ・体幹トレーニングや体ほぐしの運動に年間を通して取り組んでいく。
	思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> ・運動遊びを工夫したり、考えたことを他者に伝えたりする活動については、継続した指導が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・運動遊びを振り返る時間を十分に確保する。また、発表の仕方を例示して他教科の学びを生かしながら慣れさせる。
	主体的に学習に取り組もうとする態度	<ul style="list-style-type: none"> ・体を動かすことを楽しんでいる児童が多い。 ・学習を振り返り、できるようになったことや次時に目指すべきことを整理する活動に慣れ親しませる必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ルールを守ることで、互いに楽しく運動できることを継続指導する。 ・振り返りの時間を十分に確保し、主体的な学習が生まれるよう指導を継続する。